

## 化学物質の環境への排出量等（平成 24 年度分）について

平成 24 年度の愛知県内における化学物質の環境中への排出量等について、このたび、「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律（以下「化管法」という。）」及び「県民の生活環境の保全等に関する条例（以下「条例」という。）」に基づき、取りまとめました。

※ この資料に記載している排出量等の集計値については、表示単位未満を四捨五入により端数処理をしているため、合計等の値が各数値を合計した値と異なる場合があります。

### 【参考】

化管法では、対象とされた化学物質を製造したり使用したりしている事業者は、環境中に排出した量（届出排出量）及び廃棄物などとして処理するために事業所の外へ移動させた量（届出移動量）を自ら把握し、年に 1 回、国に届出することとされています。国は、その届出データを集計するとともに届出の対象にならない事業所、家庭及び移動体（自動車等）から環境中に排出された量（届出外排出量）を推計し、公表します。（P R T R 制度）

また、条例では、対象とされた化学物質を製造したり使用したりしている事業者は、その製造量及び使用量（届出取扱量）を自ら把握し、年に 1 回、愛知県知事に届出することとされています。

本県は、国が公表したデータをもとにして、本県における排出量等を集計するとともに、条例に基づく届出取扱量も集計し、併せて公表します。

- 化管法の届出対象となる事業者（以下の①から③の 3 つの要件をすべて満たす事業者）
  - ① 政令で指定された業種を営む事業者
  - ② 常用雇用者 21 人以上の事業者
  - ③ 第一種指定化学物質のいずれかを 1 年間に 1 トン以上（特定第一種指定化学物質については 0.5 トン以上）取扱う事業所を有する事業者又は特別要件施設（廃棄物処理施設や下水道終末処理施設など）を有する事業者
- 条例の届出対象となる事業者  
化管法の届出対象事業者と同じ。  
ただし、廃棄物処理施設や下水道終末処理施設などの特別要件施設は含まれない。
- 集計した化学物質  
化管法及び条例により、人の健康を損なうおそれ又は動植物の生息若しくは生育に支障を及ぼすおそれがあるものとして、排出量等の把握・届出が義務付けられている化学物質  
平成 20 年の化管法施行令改正に伴い、平成 22 年度から、対象化学物質が 354 物質から 462 物質に変更されており、平成 24 年度（単年度）における排出量等及びその前年度比較の集計については、化管法政令改正後の対象化学物質（462 物質）を対象としたが、排出量等の経年変化については、化管法施行令改正の前線で継続して対象物質に指定されている 276 物質（継続物質）を集計の対象とした。

# 第1 平成24年度排出量・移動量・取扱量及びその前年度比較の集計結果について

平成24年度排出量等及びその前年度比較の集計（第1.1から第1.7（2））については、化管法政令改正後の対象化学物質（462物質）を対象としました。

## 1 他都道府県との排出量等の比較

愛知県は、届出排出量、全排出量及び届出移動量が全国第1位でした。

表1-1-1 排出量等上位5都道府県

(トン/年)

順位	届出排出量		届出外排出量		全排出量		届出移動量	
1	愛知県	11,676 (12,416)	東京都	16,538 (17,911)	愛知県	24,321 (26,072)	愛知県	24,541 (22,799)
2	静岡県	9,383 (9,283)	愛知県	12,645 (13,656)	東京都	18,534 (19,991)	兵庫県	15,765 (15,056)
3	広島県	9,302 (10,310)	北海道	12,332 (12,711)	埼玉県	17,360 (18,821)	福岡県	14,415 (14,756)
4	埼玉県	7,702 (8,509)	大阪府	10,696 (11,850)	千葉県	17,054 (17,722)	千葉県	13,912 (15,299)
5	兵庫県	7,118 (8,408)	千葉県	10,467 (10,845)	静岡県	16,788 (17,196)	大阪府	12,348 (11,637)
-	全国合計	162,239 (174,180)	全国合計	242,626 (253,756)	全国合計	404,865 (427,937)	全国合計	219,128 (225,485)

※表中の（ ）内の数値は平成23年度における排出量等

## 2 化管法に基づく届出件数

化学物質の排出量及び移動量について2,116事業所から届出がありました。届出事業所数の多い業種は、①燃料小売業が810件、②輸送用機械器具製造業205件、③金属製品製造業156件、④化学工業120件、⑤一般廃棄物処理業93件の順であり、この5業種で全体の65.4%を占めていました。

表1-2-1 業種別の届出事業所数

業種	届出事業所数	業種	届出事業所数
製造業	1,010 (1,018)	電気業	17 (18)
食品製造業	27 (29)	ガス業	1 (1)
飲料・たばこ・飼料製造業	9 (9)	熱供給業	1 (1)
繊維工業	17 (18)	下水道業	52 (53)
衣服・その他の繊維製品製造業	0 (1)	鉄道業	2 (2)
木材・木製品製造業	15 (15)	倉庫業	10 (10)
家具・装備品製造業	6 (6)	石油卸売業	14 (13)
パルプ・紙・紙加工品製造業	24 (26)	自動車卸売業	1 (1)
出版・印刷・同関連産業	16 (14)	燃料小売業	810 (810)
化学工業	120 (121)	洗濯業	8 (8)
石油製品・石炭製品製造業	28 (22)	自動車整備業	23 (24)
プラスチック製品製造業	83 (85)	機械修理業	3 (3)
ゴム製品製造業	20 (21)	商品検査業	4 (5)
窯業・土石製品製造業	82 (88)	計量証明業	1 (1)
鉄鋼業	38 (38)	一般廃棄物処理業	93 (92)
非鉄金属製造業	41 (39)	(ごみ処分量に限る。)	0
金属製品製造業	156 (154)	産業廃棄物処分量	43 (45)
一般機械器具製造業	60 (63)	医療業	6 (6)
電気機械器具製造業	54 (54)	高等教育機関	8 (7)
輸送用機械器具製造業	205 (203)	自然科学研究所	9 (6)
精密機械器具製造業	7 (9)		
その他の製造業	2 (3)	合計	2,116 (2,124)

※表中の（ ）内の数値は平成23年度における届出事業所数

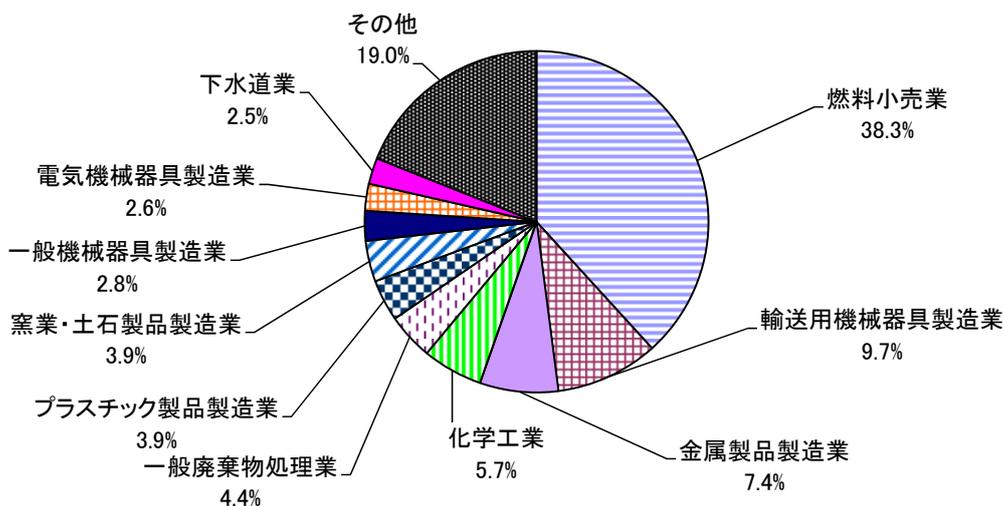


図1-2-1 届出事業所数上位10業種の割合

### 3 全排出量

#### (1) 全排出量の構成

全排出量は 24,321 トンであり、そのうち事業系の排出量は全体の 74.1%を占めていました。また、家庭からの排出量は 13.5%、移動体からの排出量は 12.4%の割合でした。前年度と比較すると、全排出量は 1,751 トン (6.7%) 減少しました。

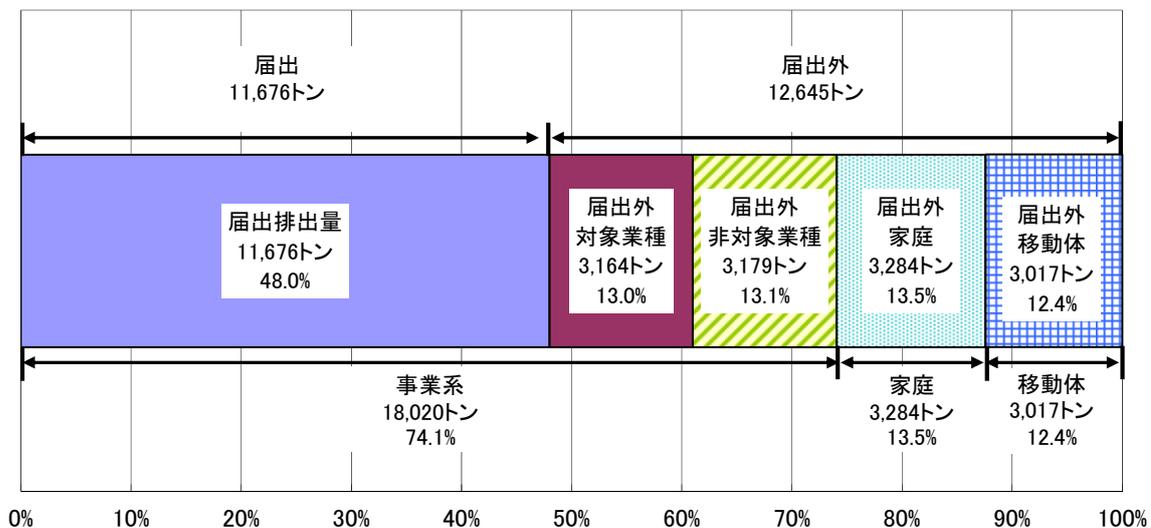


図1-3-1 全排出量の構成割合

表1-3-1 全排出量の構成割合の前年度比較

	全排出量						合計 (トン/年)
	届出排出量 (トン/年)	届出外排出量(トン/年)				小計	
		対象業種	非対象業種	家庭	移動体		
平成24年度	11,676	3,164	3,179	3,284	3,017	12,645	24,321
平成23年度	12,416	3,377	3,736	3,343	3,200	13,656	26,072
前年度差	△ 740	△ 212	△ 557	△ 59	△ 182	△ 1,011	△ 1,751
増減率	△ 6.0%	△ 6.3%	△ 14.9%	△ 1.8%	△ 5.7%	△ 7.4%	△ 6.7%

(2) 物質別の全排出量

全排出量の上位5物質は、①トルエン、②キシレン、③エチルベンゼン、④ポリ（オキシエチレン）＝アルキルエーテル、⑤ノルマルーヘキサンであり、この5物質で全体の64.2%を占めていました。

①トルエン、②キシレン、③エチルベンゼン、⑤ノルマルーヘキサンは、事業系の排出量が多く、④ポリ（オキシエチレン）＝アルキルエーテルは家庭からの排出量が多くなっていました。なお、前年度と比較すると、上位3物質の排出量は減少しました。

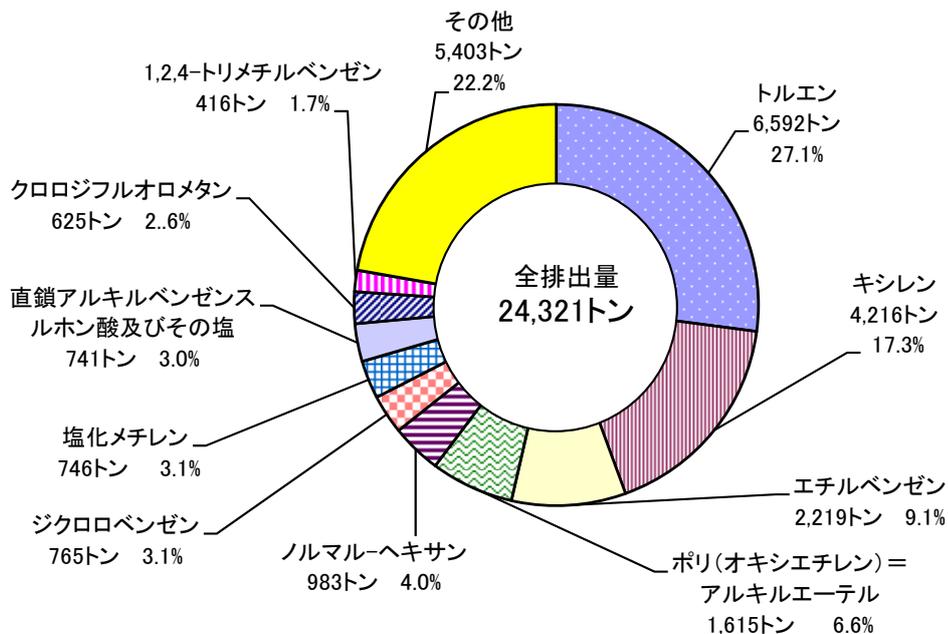


図1-3-2 全排出量上位10物質の割合

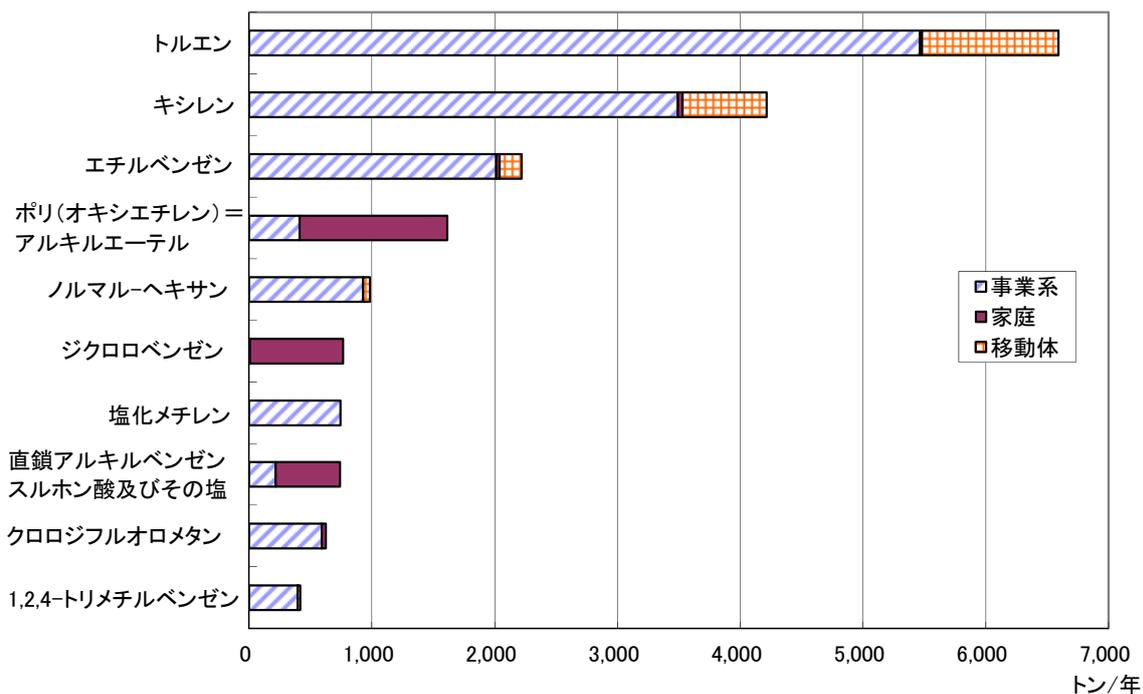


図1-3-3 全排出量上位10物質の発生源

表 1-3-2 全排出量上位 5 物質の前年度比較

	全排出量(トン/年)						合計 (トン/年)
	①トルエン	②キシレン	③エチル ベンゼン	④ホリ(オキシエチレン) =アルキルエーテル	⑤ノルマル- ヘキサン	その他	
平成 24 年度	6,592	4,216	2,219	1,615	983	8,696	24,321
平成 23 年度	6,922	4,769	2,274	1,577	955	9,576	26,072
前年度差	△ 330	△ 553	△ 55	39	28	△ 880	△ 1,751
増減率	△ 4.8%	△ 11.6%	△ 2.4%	2.4%	2.9%	△ 9.2%	△ 6.7%

#### 4 届出排出量

##### (1) 届出排出量の排出先

届出排出量は 11,676 トンであり、全体の 95.4%が大気へ排出されました。

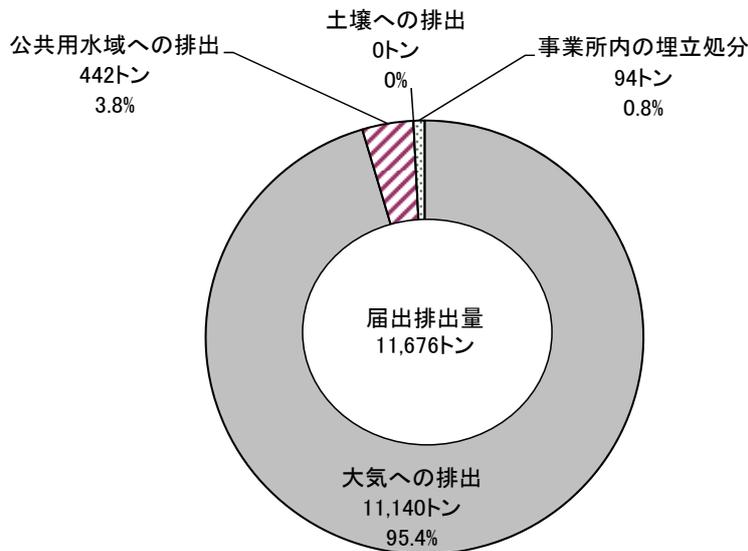


図 1-4-1 排出先別の届出排出量の割合

##### (2) 業種別の届出排出量

届出排出量の上位 5 業種は、①輸送用機械器具製造業、②プラスチック製品製造業、③金属製品製造業、④化学工業、⑤一般機械器具製造業であり、この 5 業種で全体の 74.0%を占めていました。なお、前年度と比較すると、①輸送用機械器具製造業、②プラスチック製品製造業、④化学工業の排出量は減少しました。

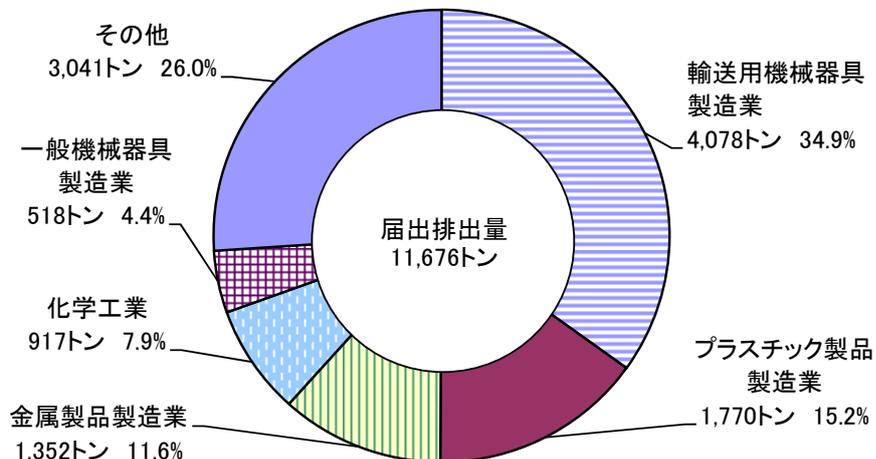


図 1-4-2 届出排出量上位 5 業種の割合

表 1 - 4 - 1 届出排出量上位 5 業種の前年度比較

	届出排出量(トン/年)						合計 (トン/年)
	①輸送用機械 器具製造業	②プラスチック 製品製造業	③金属製品 製造業	④化学工業	⑤一般機械 器具製造業	その他	
平成 24 年度	4,078	1,770	1,352	917	518	3,041	11,676
平成 23 年度	4,463	1,876	1,355	965	499	3,258	12,416
前年度差	△ 385	△ 107	△ 3	△ 48	18	△ 217	△ 740
増減率	△ 8.6%	△ 5.7%	△ 0.2%	△ 5.0%	3.7%	△ 6.6%	△ 6.0%

(3) 物質別の届出排出量

届出排出量の上位 5 物質は、①トルエン、②キシレン、③エチルベンゼン、④ノルマルヘキサン、⑤塩化メチレンであり、この 5 物質で全体の 81.5%を占めていました。なお、前年度と比較すると、上位 4 物質の排出量は減少しました。

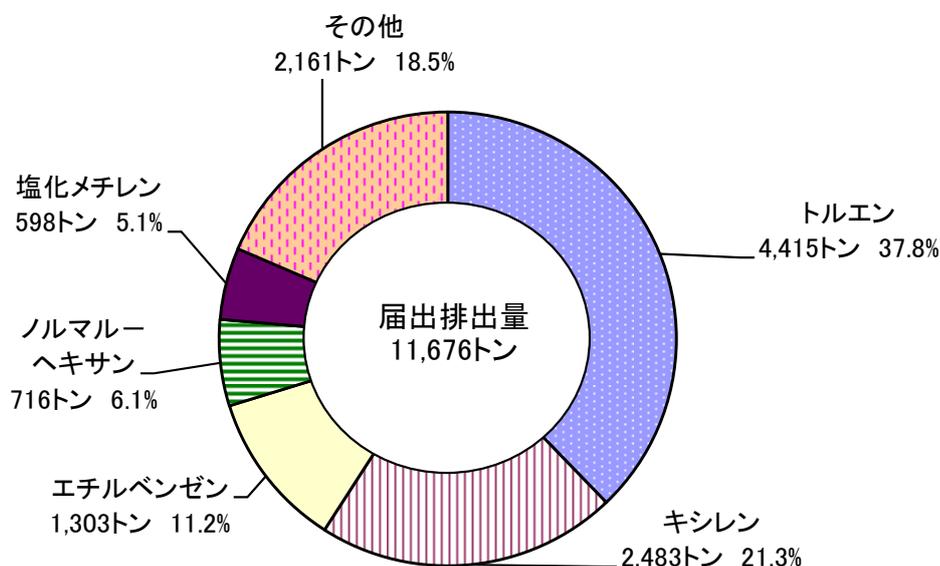


図 1 - 4 - 3 届出排出量上位 5 物質の割合

表 1 - 4 - 2 届出排出量上位 5 物質の前年度比較

	届出排出量(トン/年)						合計 (トン/年)
	①トルエン	②キシレン	③エチル ベンゼン	④ノルマル ヘキサン	⑤塩化 メチレン	その他	
平成 24 年度	4,415	2,483	1,303	716	598	2,161	11,676
平成 23 年度	4,525	2,776	1,386	753	596	2,380	12,416
前年度差	△ 110	△ 293	△ 83	△ 37	3	△ 219	△ 740
増減率	△ 2.4%	△ 10.6%	△ 6.0%	△ 5.0%	0.4%	△ 9.2%	△ 6.0%

## 5 届出外排出量

### (1) 届出外排出量の構成

届出外排出量は12,645トンであり、その排出源については、対象業種と非対象業種からの排出量の合計（事業系）が全体の50.2%を占めていました。また、家庭からの排出量が26.0%、移動体からの排出量は23.9%の割合でした。なお、前年度と比較すると、いずれの排出源についても排出量は減少しました。

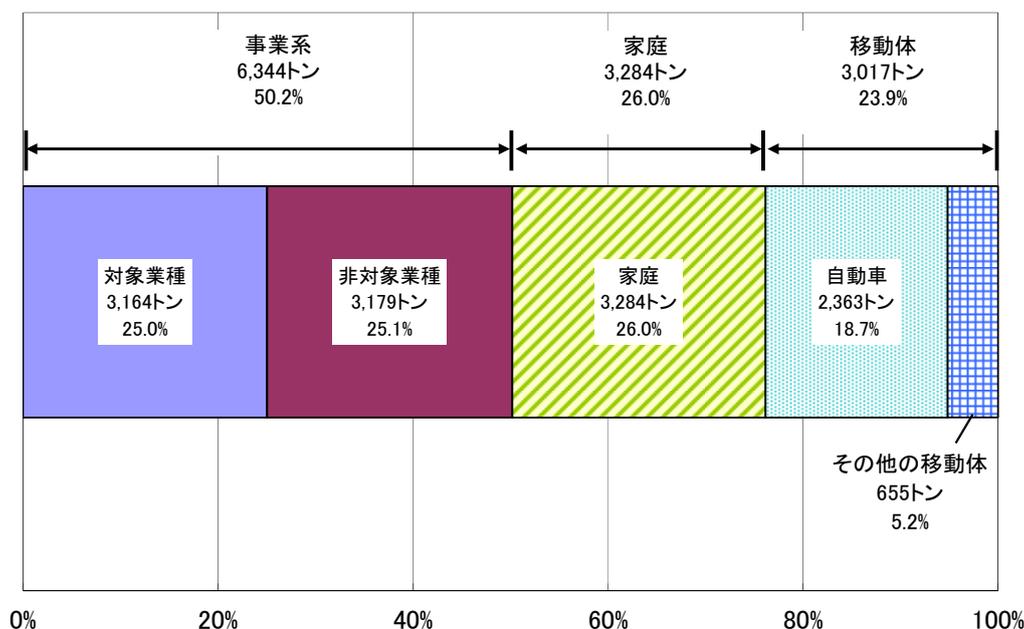


図1-5-1 届出外排出量の構成割合

表1-5-1 届出外排出量の構成割合の前年度比較

	届出外排出量(トン/年)					合計 (トン/年)
	対象業種	非対象業種	家庭	自動車	その他の移動体	
平成24年度	3,164	3,179	3,284	2,363	655	12,645
平成23年度	3,377	3,736	3,343	2,508	692	13,656
前年度差	△ 212	△ 557	△ 59	△ 145	△ 37	△ 1,011
増減率	△ 6.3%	△ 14.9%	△ 1.8%	△ 5.8%	△ 5.4%	△ 7.4%

### (2) 家庭からの物質別の排出量

家庭からの排出量の上位5物質は、①ポリ（オキシエチレン）＝アルキルエーテル、②ジクロロベンゼン、③直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩、④ポリ（オキシエチレン）＝ドデシルエーテル硫酸エステルナトリウム、⑤ドデシル硫酸ナトリウムであり、この5物質で全体の83.4%を占めていました。なお、前年度と比較すると、いずれの物質についても排出量は減少しました。

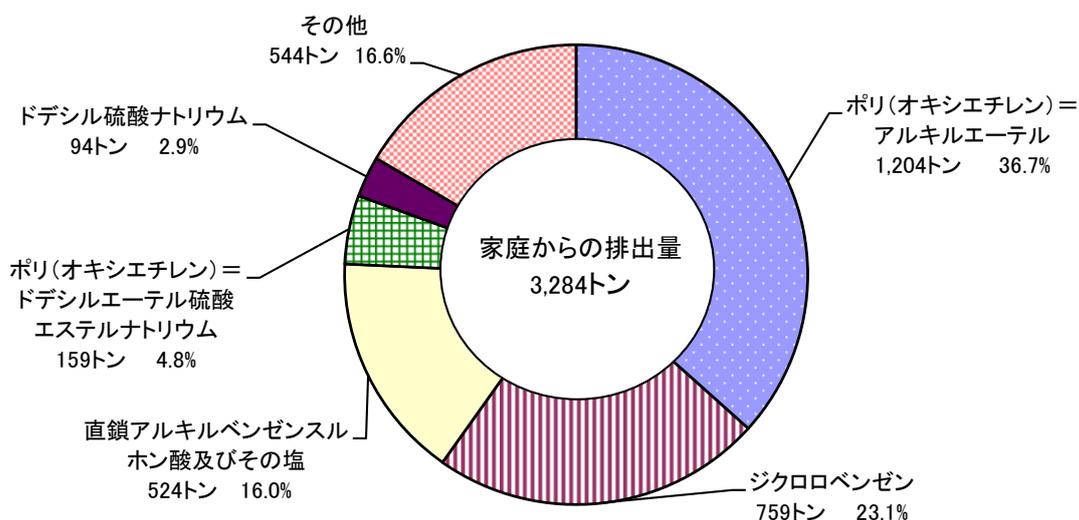


図 1-5-2 家庭からの排出量上位5物質の割合

表 1-5-2 家庭からの排出量上位5物質の前年度比較

	家庭からの排出量(トン/年)						合計 (トン/年)
	①ポリ(オキシエチレン)=アルキルエーテル	②ジクロロベンゼン	③直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩	④ポリ(オキシエチレン)=ドデシルエーテル硫酸エステルナトリウム	⑤ドデシル硫酸ナトリウム	その他	
平成 24 年度	1,204	759	524	159	94	544	3,284
平成 23 年度	1,210	783	533	175	96	546	3,343
前年度差	△ 6	△ 23	△ 9	△ 17	△ 2	△ 2	△ 59
増減率	△ 0.5%	△ 3.0%	△ 1.7%	△ 9.5%	△ 2.5%	△ 0.4%	△ 1.8%

表 1-5-3 家庭からの排出量上位5物質の用途

物質名	用途
ポリ(オキシエチレン) = アルキルエーテル	洗浄剤・化粧品
ジクロロベンゼン	防虫剤・消臭剤
直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩	洗浄剤・化粧品
ポリ(オキシエチレン) = ドデシルエーテル硫酸エステルナトリウム	洗浄剤・化粧品
ドデシル硫酸ナトリウム	洗浄剤・化粧品

(3) 移動体からの排出量

移動体からの排出量の上位5物質は、①トルエン、②キシレン、③ベンゼン、⑥エチルベンゼンであり、この5物質で全体の85.7%を占めていました。また、前年度と比較すると、いずれの物質についても排出量は減少しました。

なお、移動体の種類別の排出量については、自動車からの排出量が全体の78.3%を占めていました。

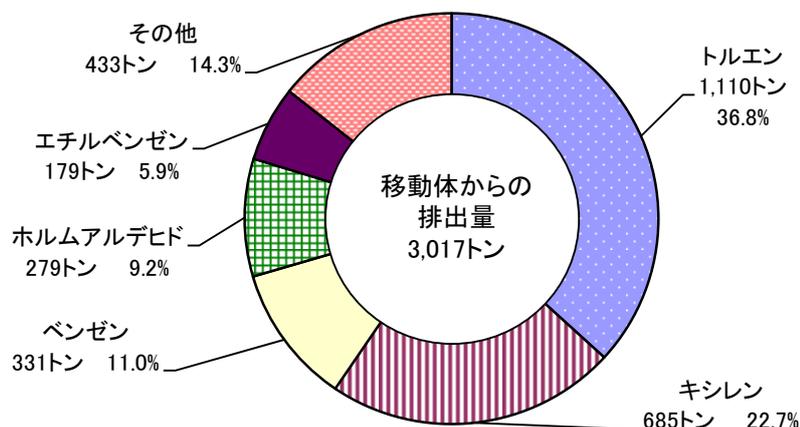


図1-5-3 移動体からの排出量上位5物質の割合

表1-5-4 移動体からの排出量上位5物質の前年度比較

	移動体からの排出量(トン/年)						合計 (トン/年)
	①トルエン	②キシレン	③ベンゼン	④ホルムアルデヒド	⑤エチルベンゼン	その他	
平成24年度	1,110	685	331	279	179	433	3,017
平成23年度	1,186	732	350	290	192	449	3,200
前年度差	△76	△47	△20	△10	△13	△17	△182
増減率	△6.4%	△6.4%	△5.6%	△3.6%	△6.6%	△3.7%	△5.7%

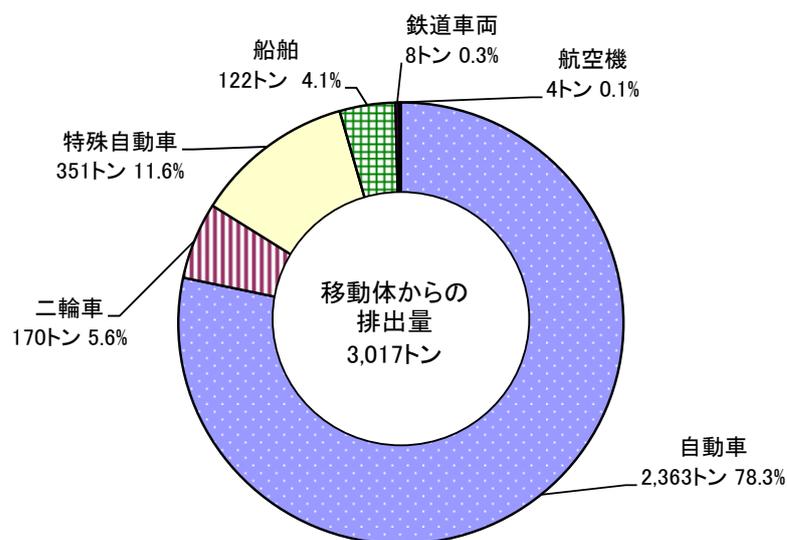


図1-5-4 移動体からの排出量の種類別の割合

表 1-5-5 移動体からの種類別排出量の前年度比較

	移動体からの排出量(トン/年)						合計 (トン/年)
	①自動車	②二輪車	③特殊自動車	④船舶	⑤鉄道車両	⑥航空機	
平成 24 年度	2,363	170	351	122	8	4	3,017
平成 23 年度	2,508	181	361	137	8	5	3,200
前年度差	△ 145	△ 11	△ 11	△ 15	0	△ 1	△ 182
増減率	△ 5.8%	△ 6.0%	△ 3.0%	△ 10.7%	1.1%	△ 18.2%	△ 5.7%

## 6 届出移動量

### (1) 届出移動量の移動先

届出移動量は 24,541 トンであり、全体の 99.8%が廃棄物として事業場外へ移動されました。

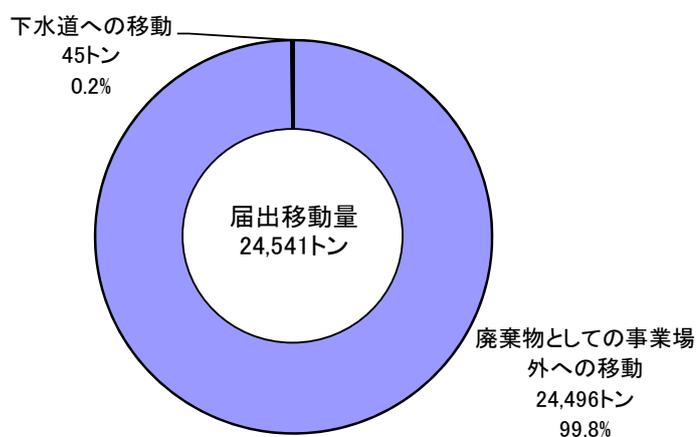


図 1-6-1 届出移動量の移動先別の割合

### (2) 業種別の届出移動量

届出移動量の上位 5 業種は、①鉄鋼業、②化学工業、③プラスチック製品製造業、④輸送用機械器具製造業、⑤金属製品製造業であり、この 5 業種で全体の 93.9%を占めていました。なお、前年度と比較すると、①鉄鋼業の移動量が増加しました。

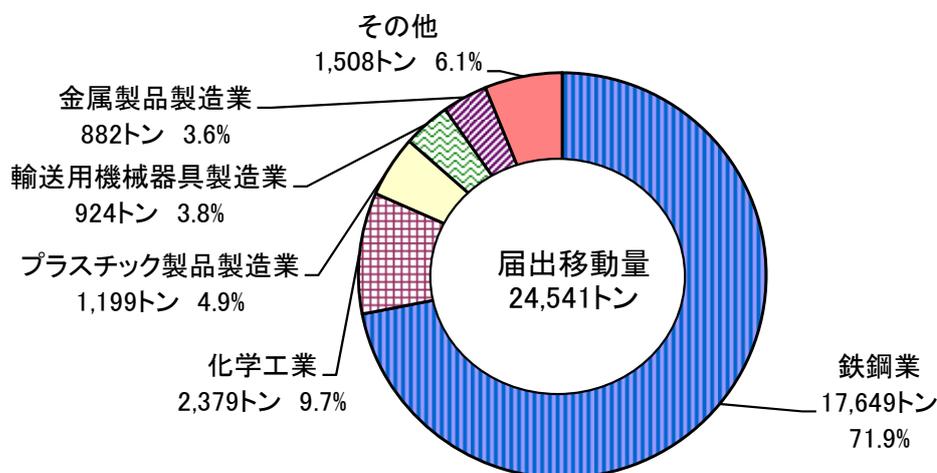


図 1-6-2 届出移動量の業種別の割合

表 1 - 6 - 1 届出移動量の業種別の前年度比較

	届出移動量(トン/年)						合計 (トン/年)
	①鉄鋼業	②化学工業	③プラスチック 製品製造業	④輸送用機械 器具製造業	⑤金属製品 製造業	その他	
平成 24 年度	17,649	2,379	1,199	924	882	1,508	24,541
平成 23 年度	15,566	2,665	1,188	966	837	1,577	22,799
前年度差	2,083	△ 286	11	△ 42	45	△ 70	1,741
増減率	13.4%	△ 10.7%	1.0%	△ 4.4%	5.4%	△ 4.4%	7.6%

(3) 物質別の届出移動量

届出移動量の上位 5 物質は、①マンガン及びその化合物、②クロム及び三価クロム化合物、③トルエン、④鉛化合物、⑤キシレンであり、この 5 物質で全体の 80.0%を占めていました。なお、前年度と比較すると、①マンガン及びその化合物の移動量が増加しました。

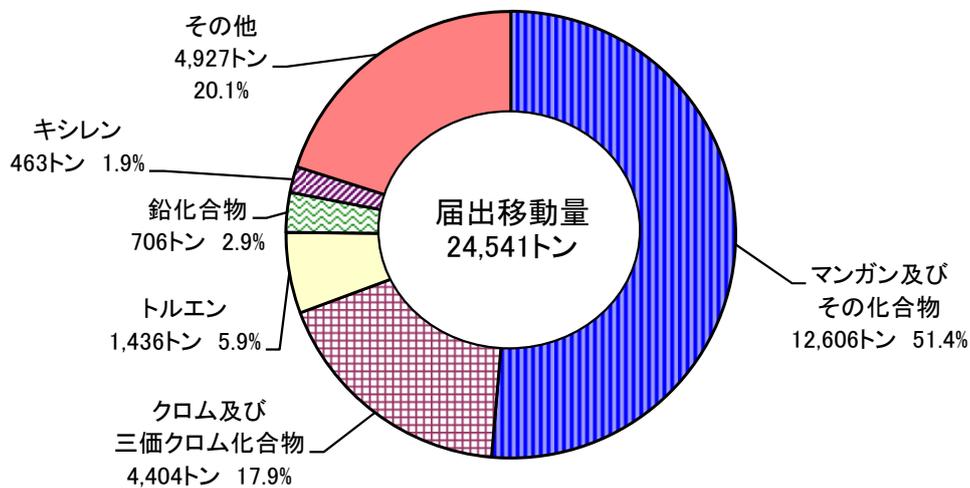


図 1 - 6 - 3 届出移動量の物質別の割合

表 1 - 6 - 2 届出移動量の物質別の前年度比較

	届出移動量(トン/年)						合計 (トン/年)
	①マンガン及び その化合物	②クロム及び三価 クロム化合物	③トルエン	④鉛化合物	⑤キシレン	その他	
平成 24 年度	12,606	4,404	1,436	706	463	4,927	24,541
平成 23 年度	10,097	4,549	1,757	944	431	5,021	22,799
前年度差	2,509	△ 145	△ 321	△ 238	32	△ 95	1,741
増減率	24.8%	△ 3.2%	△ 18.3%	△ 25.2%	7.3%	△ 1.9%	7.6%

## 7 届出取扱量

### (1) 業種別の届出取扱量

届出取扱量の上位5業種は、①化学工業、②石油製品・石炭製品製造業、③燃料小売業、④鉄鋼業、⑤倉庫業であり、この5業種で全体の91.9%を占めていました。なお、前年度と比較すると、①化学工業、④鉄鋼業、⑤倉庫業の取扱量は減少しました。

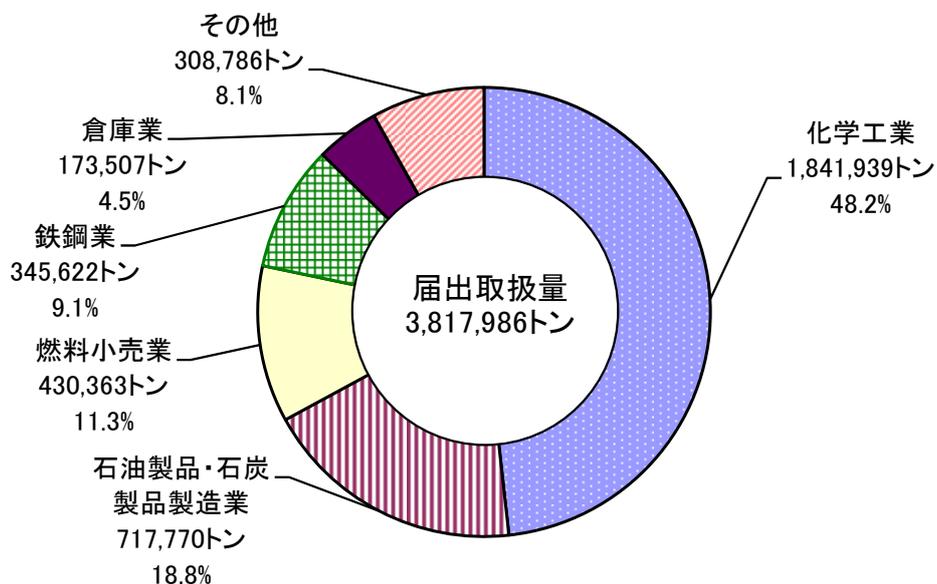


図1-7-1 届出取扱量の業種別の割合

表1-7-1 届出取扱量の業種別の前年度比較

	届出取扱量(トン/年)						合計 (トン/年)
	①化学工業	②石油製品・石炭製品製造業	③燃料小売業	④鉄鋼業	⑤倉庫業	その他	
平成24年度	1,841,939	717,770	430,363	345,622	173,507	308,786	3,817,986
平成23年度	1,965,852	696,109	434,415	419,376	180,138	321,999	4,017,888
前年度差	△ 123,913	21,661	△ 4,052	△ 73,754	△ 6,631	△ 13,212	△ 199,902
増減率	△ 6.3%	3.1%	△ 0.9%	△ 17.6%	△ 3.7%	△ 4.1%	△ 5.0%

(2) 物質別の届出取扱量

届出取扱量の上位5物質は①キシレン、②トルエン、③テレフタル酸、④ベンゼン、⑤ノルマル-ヘキサンであり、この5物質で全体の59.5%を占めていました。なお、前年度と比較すると、①キシレン、②トルエン、③テレフタル酸の取扱量は減少しました。

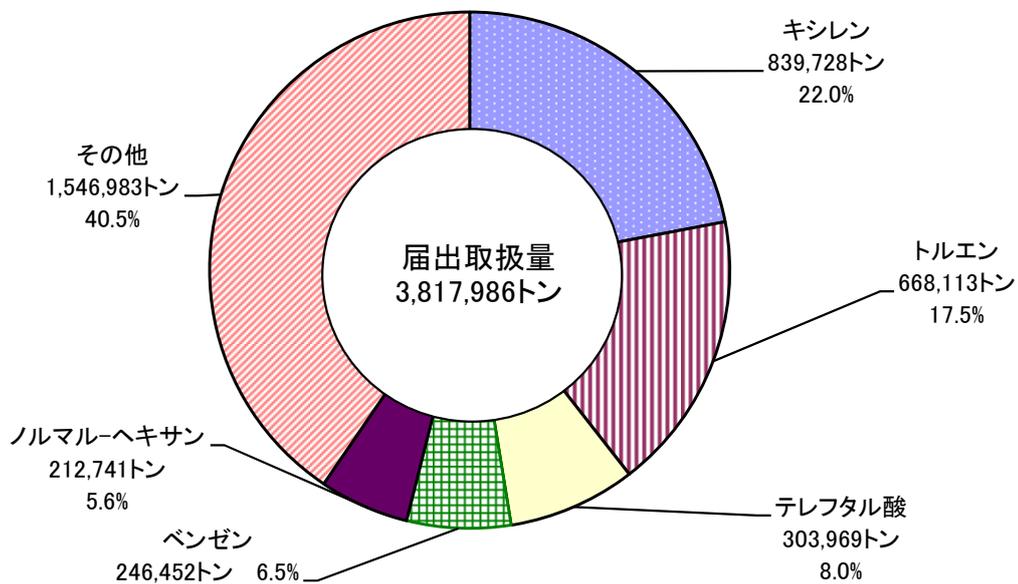


図 1-7-2 届出取扱量の物質別の割合

表 1-7-2 届出取扱量の物質別の前年度比較

	届出取扱量(トン/年)						合計 (トン/年)
	①キシレン	②トルエン	③テレフタル酸	④ベンゼン	⑤ノルマル-ヘキサン	その他	
平成 24 年度	839,728	668,113	303,969	246,452	212,741	1,546,983	3,817,986
平成 23 年度	921,834	715,560	333,448	190,946	212,580	1,643,520	4,017,888
前年度差	△ 82,106	△ 47,448	△ 29,479	55,506	161	△ 96,537	△ 199,902
増減率	△ 8.9%	△ 6.6%	△ 8.8%	29.1%	0.1%	△ 5.9%	△ 5.0%

## 第2 排出量・移動量・取扱量の経年変化について

平成20年の化管法施行令改正に伴い、平成22年度から対象化学物質が354物質から462物質に変更されましたので、排出量等の経年変化(第2.1から第2.5(4))については、化管法施行令改正の前後で継続して対象物質に指定されている276物質(以下「継続物質」という。)を集計の対象としました。

(注) 継続物質の集計方法

継続物質の集計方法については以下のとおり。

- ① 政令改正後に統合された対象化学物質(「クロロアニリン」及び「フェニレンジアミン」)の排出量等は、対応する複数の政令改正前の対象化学物質の排出量等を合計した数値と完全に対応するものとして扱う。
- ② 政令改正後に分割された対象化学物質(「鉛」、「鉛化合物」)の排出量等を合計した数値は、政令改正前の対象化学物質(「鉛及びその化合物」)の排出量等と完全に対応するものとして扱う。
- ③ 政令改正後に対象範囲が拡大または縮小された対象化学物質(「アクリル酸及びその水溶性塩」、「トリレンジイソシアネート」、「トルエンジアミン」、「バナジウム化合物」、「ほう素化合物」)の排出量等は、対応する政令改正前の対象化学物質の排出量等と同一とみなす。
- ④ 政令改正後に対象範囲が拡大されて統合された対象化学物質(「ジクロロベンゼン」及び「トリイジン」)の排出量等は、対応する複数の政令改正前の対象化学物質の排出量等を合計した数値と同一とみなす。

### 1 全排出量

#### (1) 全排出量の経年変化

集計を開始した平成13年度の排出量と比較すると、届出排出量(事業者から届出された排出量)は16,010トン(60.7%)、届出外排出量(届出対象外事業者、家庭及び移動体(自動車等)からの排出量)は26,174トン(69.0%)、全排出量(届出排出量と届出外排出量の合計)は42,184トン(65.6%)減少しました。

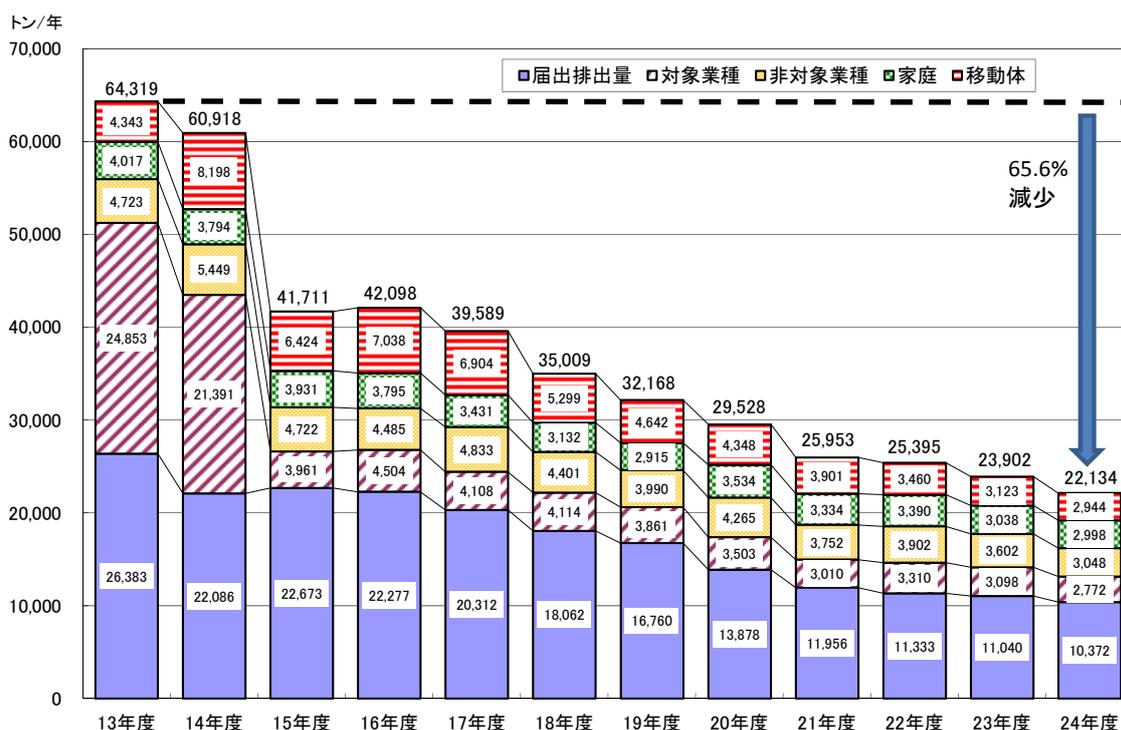


図2-1-1 全排出量の経年変化

## (2) 全排出量の上位 5 物質の経年変化

全排出量の上位 5 物質は、①トルエン、②キシレン、③エチルベンゼン、④ポリ（オキシエチレン）＝アルキルエーテル、⑤直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩でした。集計を開始した平成 13 年度と比較すると、トルエンは 10,938 トン（62.4%）、キシレンは 6,799 トン（61.7%）減少しました。

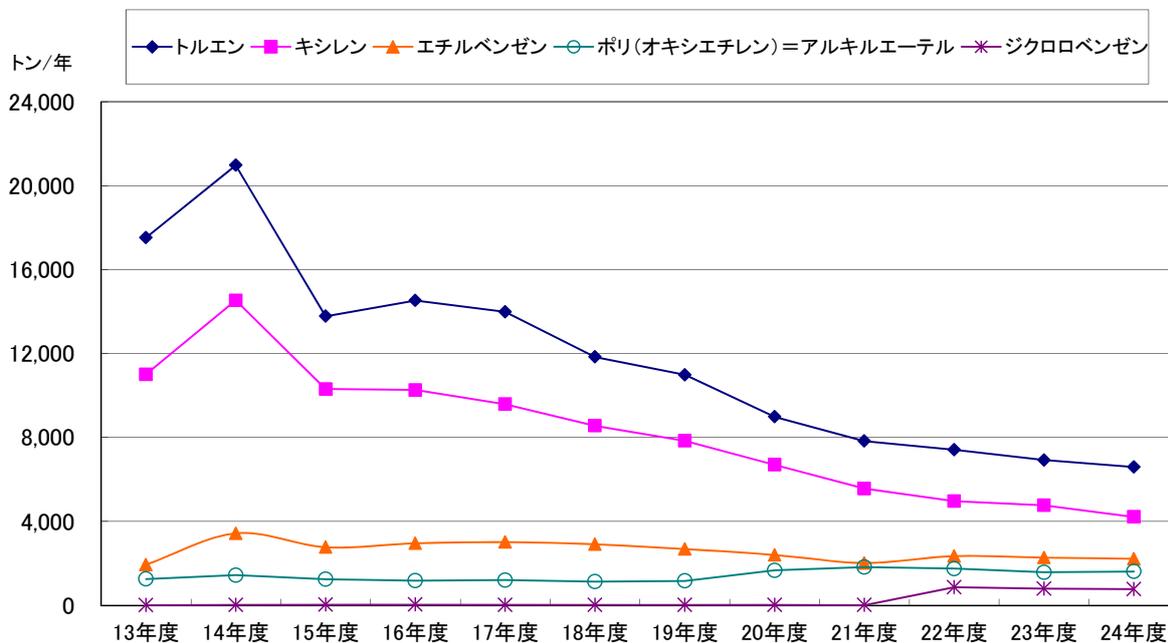


図 2 - 1 - 2 全排出量上位 5 物質の経年変化

## 2 届出排出量

### (1) 届出排出量の経年変化

届出排出量は 10,372 トンでした。集計を開始した平成 13 年度と比較すると、16,010 トン（60.7%）減少しました。

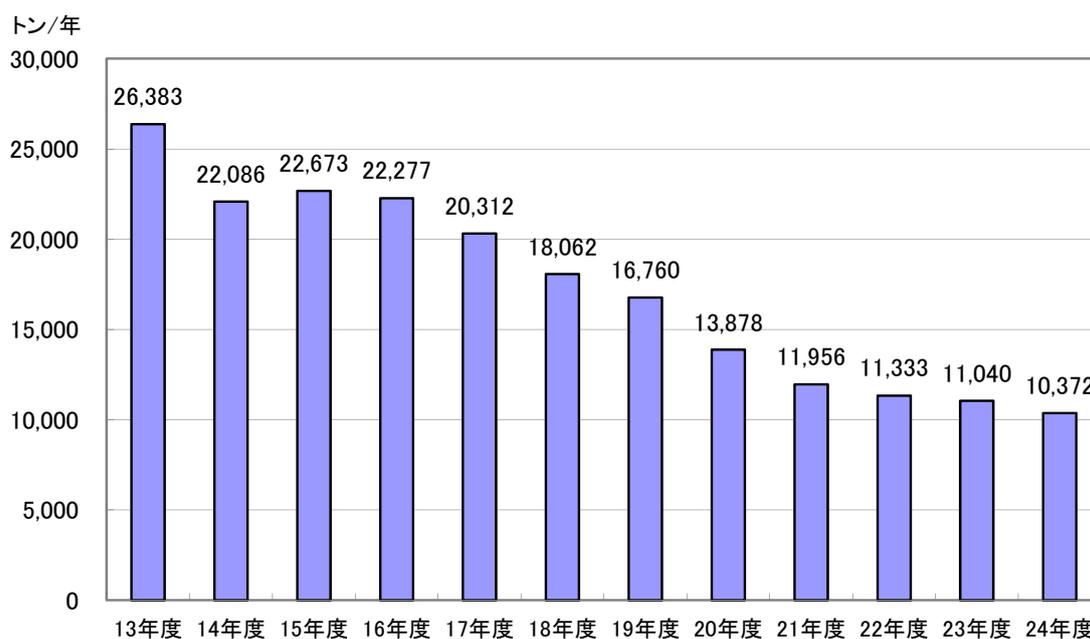


図 2 - 2 - 1 届出排出量の経年変化

## (2) 業種別の届出排出量の経年変化

届出排出量の上位5業種は、①輸送用機械器具製造業、②プラスチック製品製造業、③金属製品製造業、④化学工業、⑤一般機械器具製造業でした。集計を開始した平成13年度と比較すると、①輸送用機械器具製造業が6,258トン(62.6%)減少し、②プラスチック製品製造業は2,143トン(55.2%)減少しました。

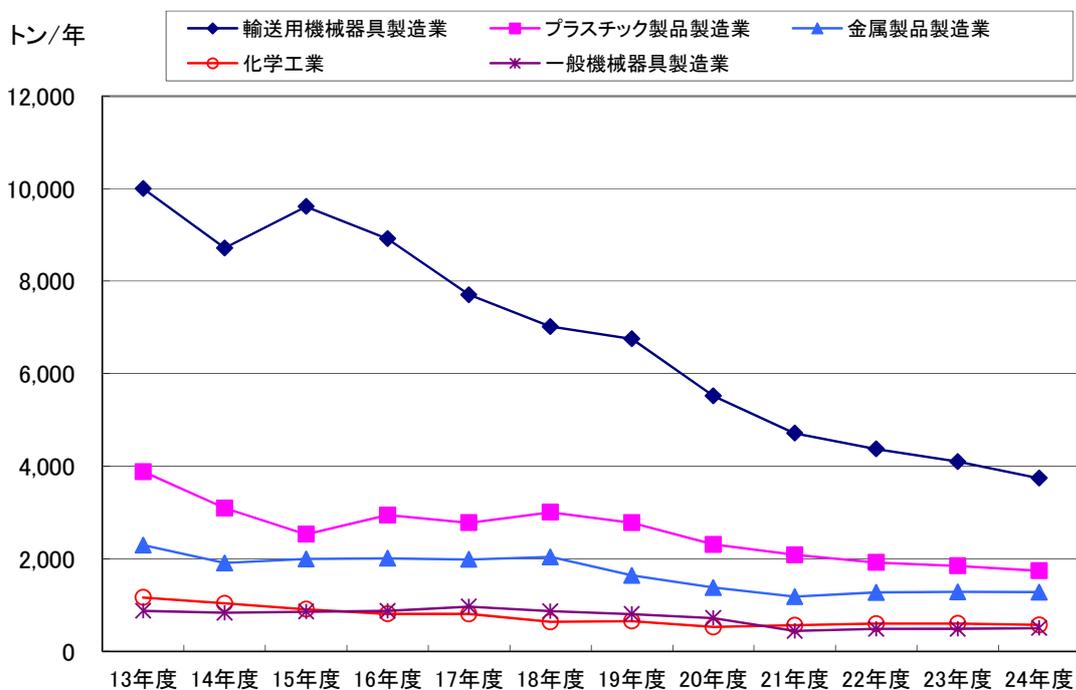


図2-2-2 届出排出量上位5業種の経年変化

## (3) 物質別の届出排出量の経年変化

届出排出量の上位5物質は、①トルエン、②キシレン、③エチルベンゼン、④塩化メチレン、⑤ふっ化水素及びその水溶性塩でした。集計を開始した平成13年度と比較すると、①トルエンは7,222トン(62.1%)、②キシレンは5,335トン(68.2%)減少しました。

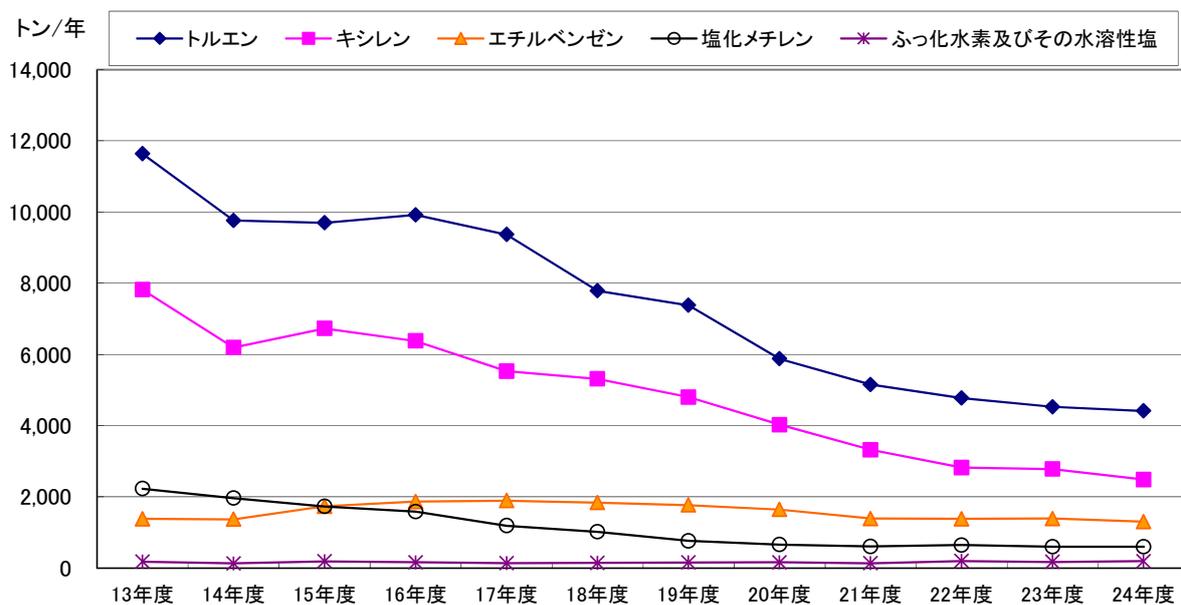


図2-2-3 届出排出量上位5物質の経年変化

(4) 業種別のトルエン及びキシレンの届出排出量の経年変化

トルエンの届出排出量の上位 5 業種は、①輸送用機械器具製造業、②プラスチック製品製造業、③出版・印刷・同関連産業、④金属製品製造業、⑤ゴム製品製造業でした。

集計を開始した平成 13 年度と比較すると、①輸送用機械器具製造業が 2,530 トン (64.4%)、②プラスチック製品製造業は 1,732 トン (59.9%) 減少しました。

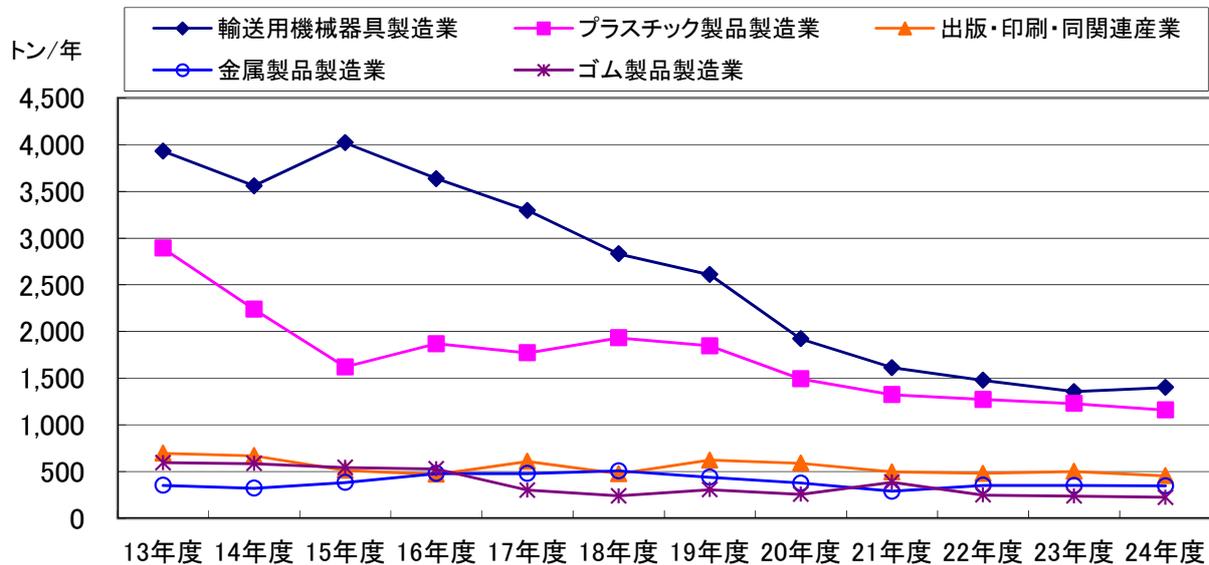


図 2-2-4 トルエンの届出排出量上位 5 業種の経年変化

キシレンの届出排出量の上位 5 業種は、①輸送用機械器具製造業、②金属製品製造業、③一般機械器具製造業、④プラスチック製品製造業、⑤鉄鋼業でした。集計を開始した平成 13 年度と比較すると、①輸送用機械器具製造業が 3,026 トン (71.0%)、②金属製品製造業は 378 トン (50.5%) 減少しました。

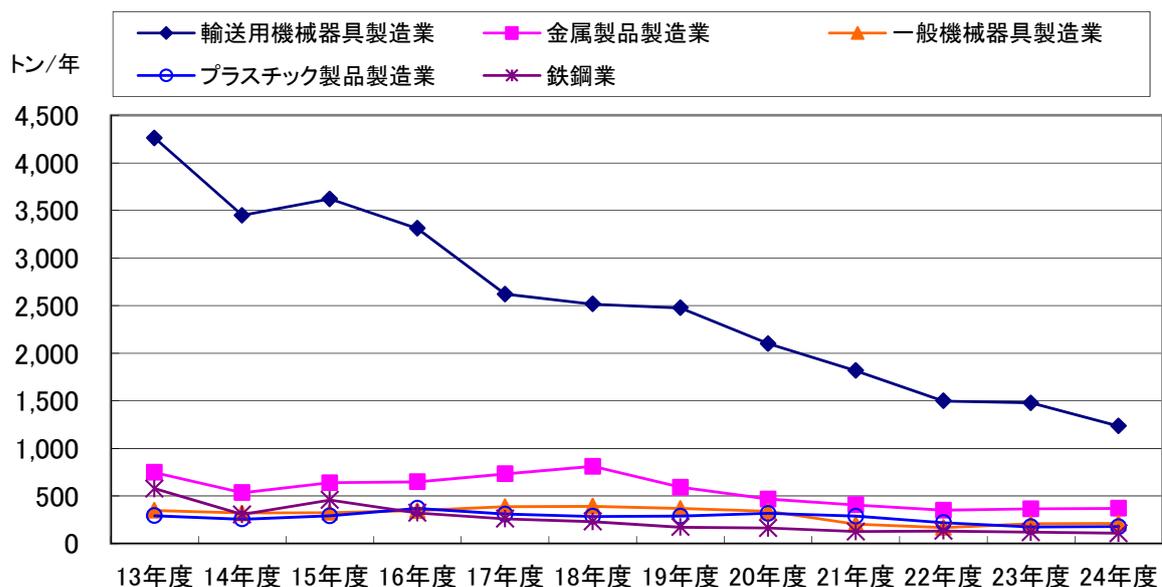


図 2-2-5 キシレンの届出排出量上位 5 業種の経年変化

### 3 届出外排出量

#### (1) 届出外排出量の経年変化

国が推計した届出外排出量は 11,762 トンであり、推計を開始した平成 13 年度と比較すると、26,174 トン (69.0%) 減少しました。

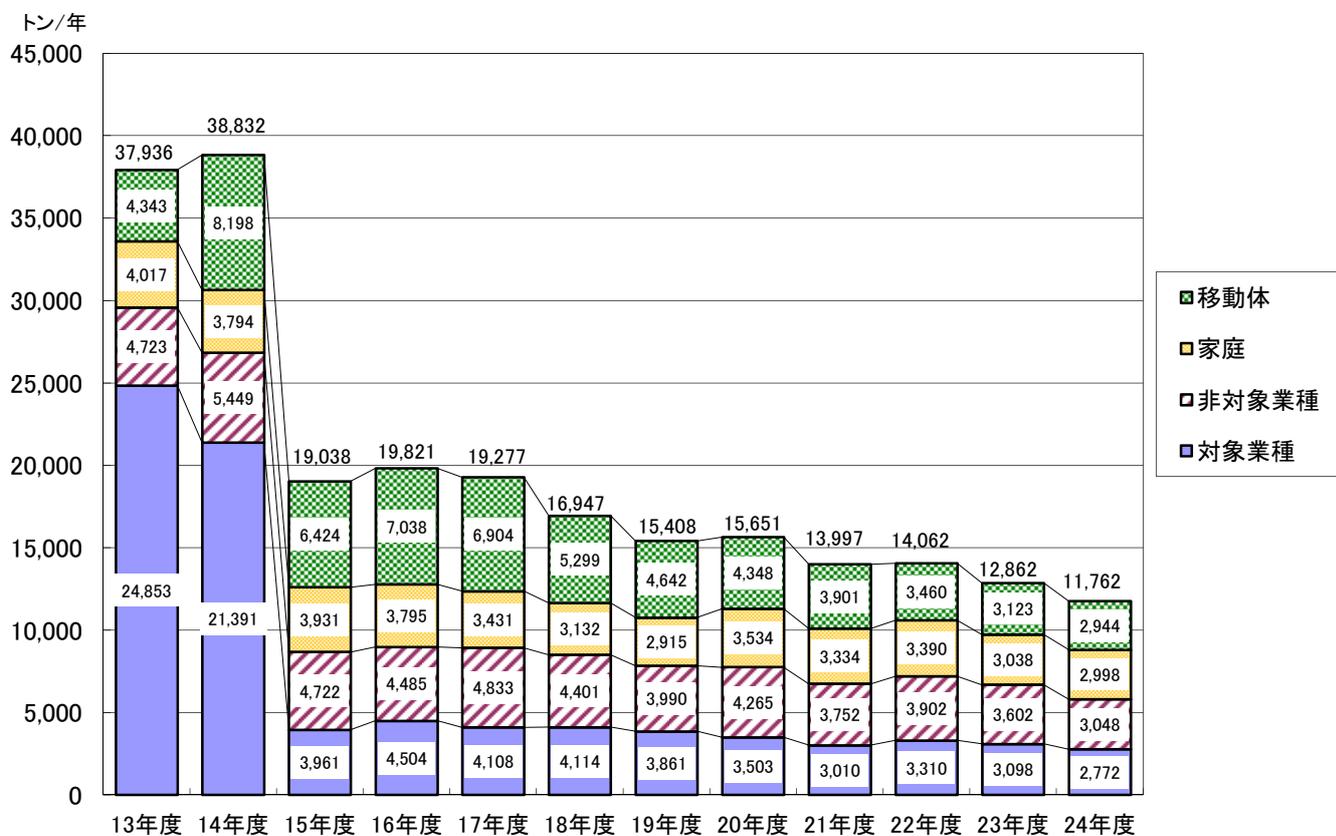


図 2 - 3 - 1 届出外排出量の経年変化

## 4 届出移動量

### (1) 届出移動量の経年変化

届出移動量は 22,885 トンであり、集計を開始した平成 13 年度と比較すると、6,512 トン（39.8%）増加しました。

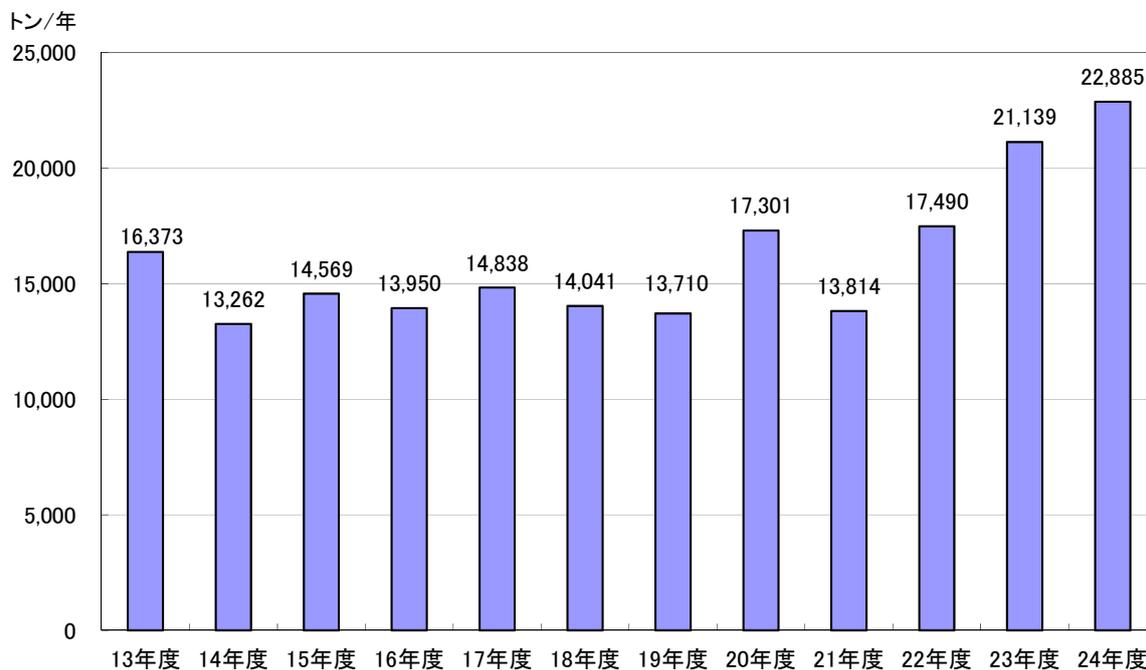


図 2-4-1 届出移動量の経年変化

### (2) 業種別の届出移動量

届出移動量の上位 5 業種は、①鉄鋼業、②化学工業、③プラスチック製品製造業、④輸送用機械器具製造業、⑤金属製品製造業でした。集計を開始した平成 13 年度と比較すると、①鉄鋼業が 13,384 トン（314.3%）増加し、②化学工業は 3,136 トン（66.1%）減少しました。

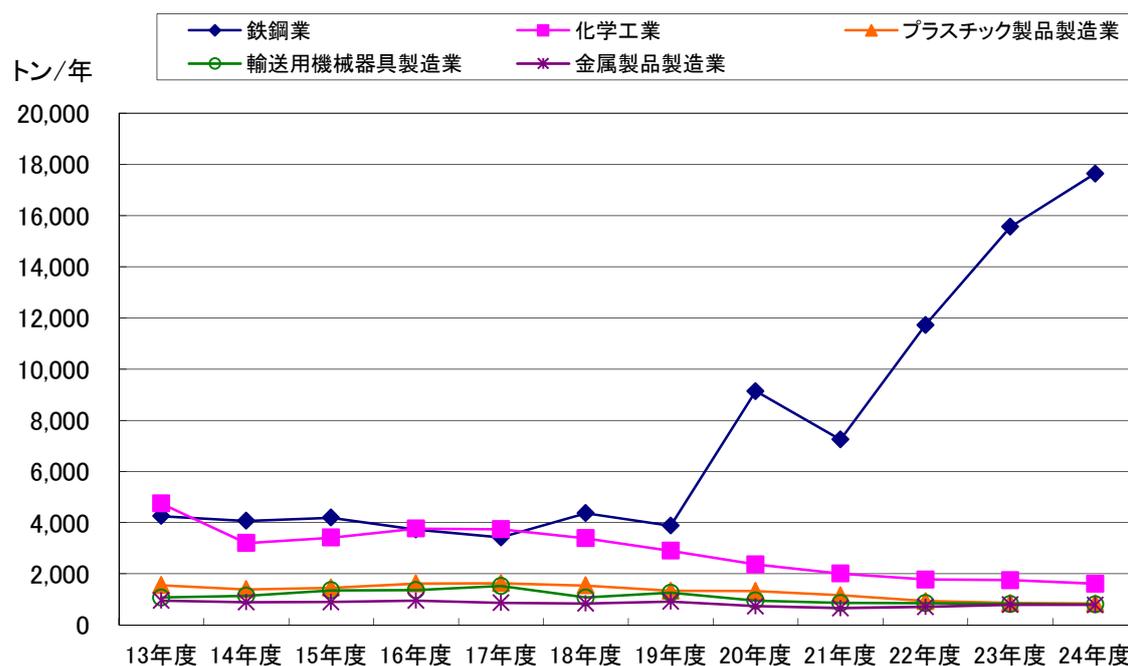


図 2-4-2 届出移動量上位 5 業種の経年変化

(3) 物質別の届出移動量

届出移動量の上位5物質は、①マンガン及びその化合物、②クロム及び三価クロム化合物、③トルエン、④鉛、鉛化合物、⑤キシレンでした。集計を開始した平成13年度と比較すると、①マンガン及びその化合物が11,111トン(743.5%)、②クロム及び三価クロム化合物は2,892トン(191.3%)増加しました。

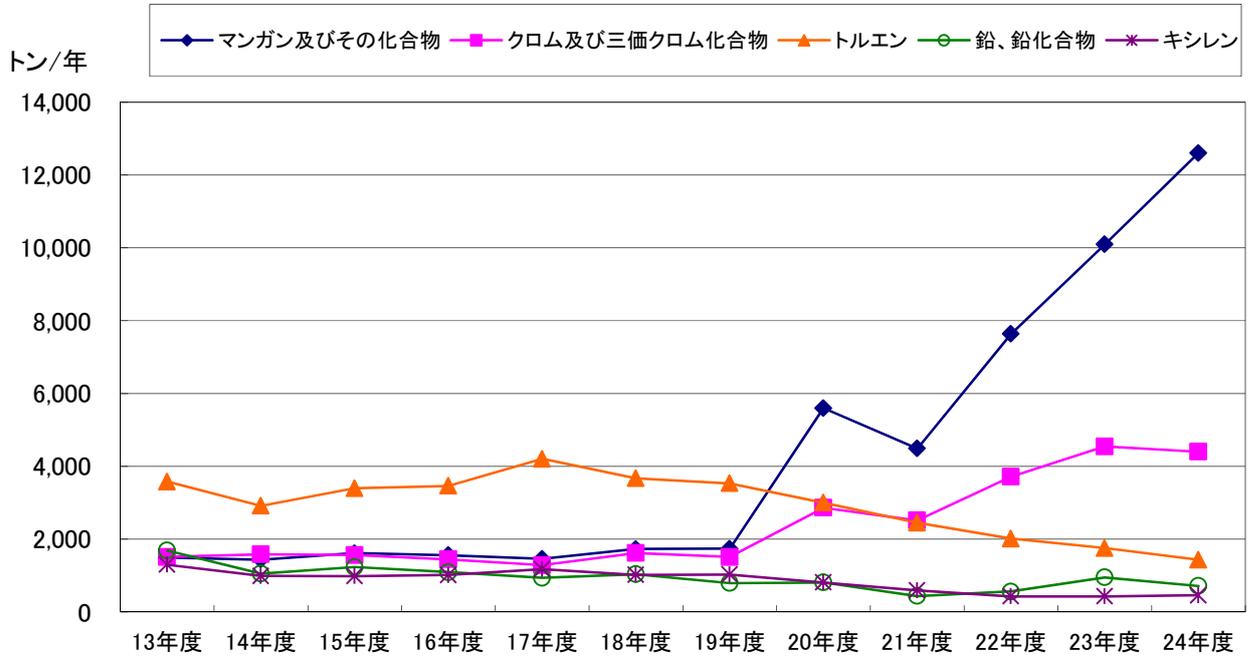


図2-4-3 届出移動量上位5物質の経年変化

5 届出取扱量

(1) 届出取扱量の経年変化

届出取扱量は3,325,880トンでした。集計を開始した平成16年度と比較すると、246,302トン(6.9%)減少しました。

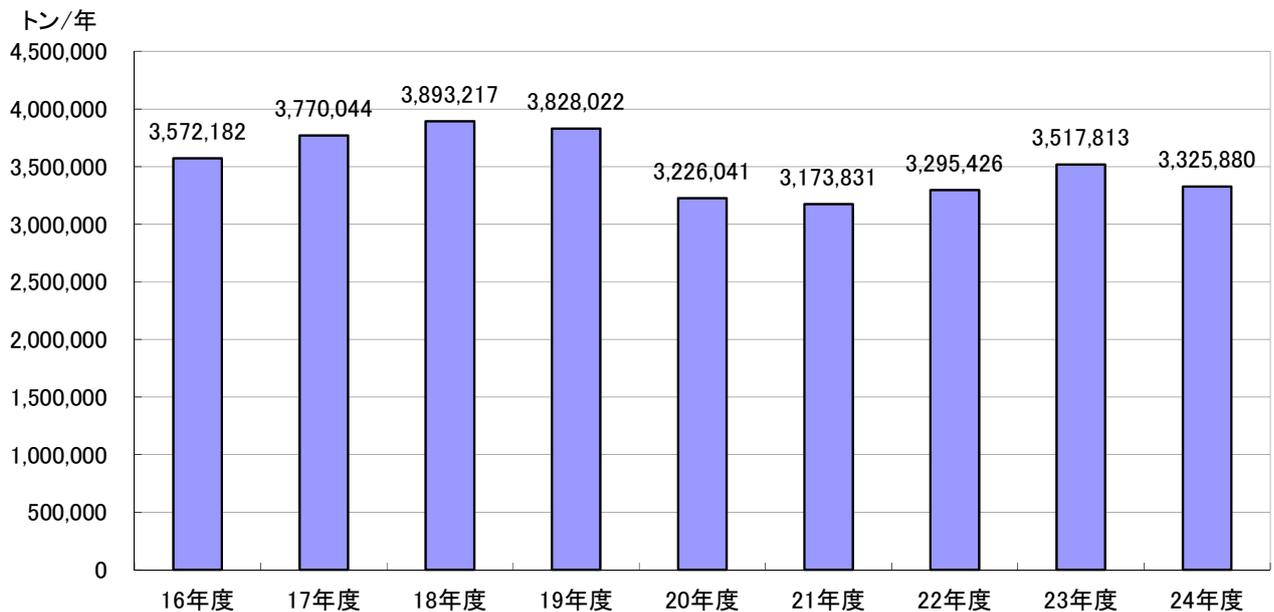


図2-5-1 届出取扱量の経年変化

## (2) 業種別の届出取扱量

届出取扱量の上位5業種は、①化学工業、②石油製品・石炭製品製造業、③鉄鋼業、④燃料小売業、⑤倉庫業でした。集計を開始した平成16年度と比較すると、①化学工業が417,606トン(32.3%)増加し、②石油製品・石炭製品製造業は448,783トン(44.7%)減少しました。

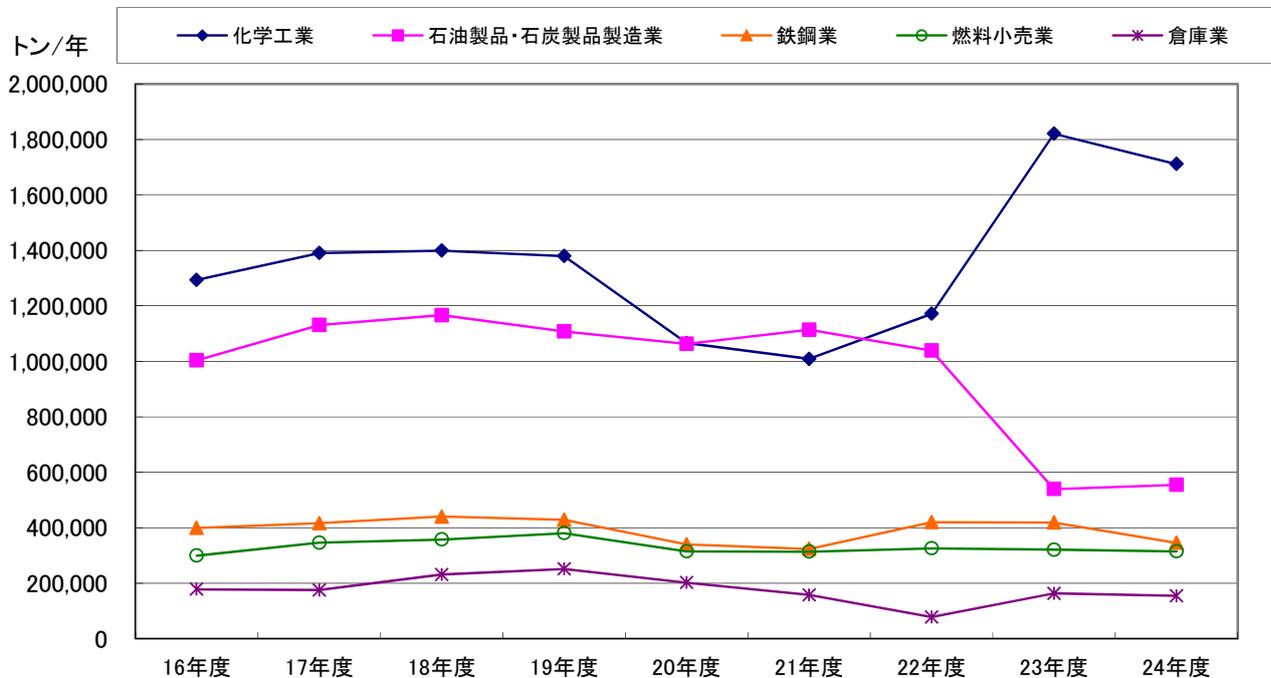


図2-5-2 届出取扱量上位5業種の経年変化

## (3) 物質別の届出取扱量

届出取扱量の上位5物質は①キシレン、②トルエン、③テレフタル酸、④ベンゼン、⑤ε-カプロラクタムでした。集計を開始した平成16年度と比較すると、②トルエンは87,354トン(11.6%)減少しました。

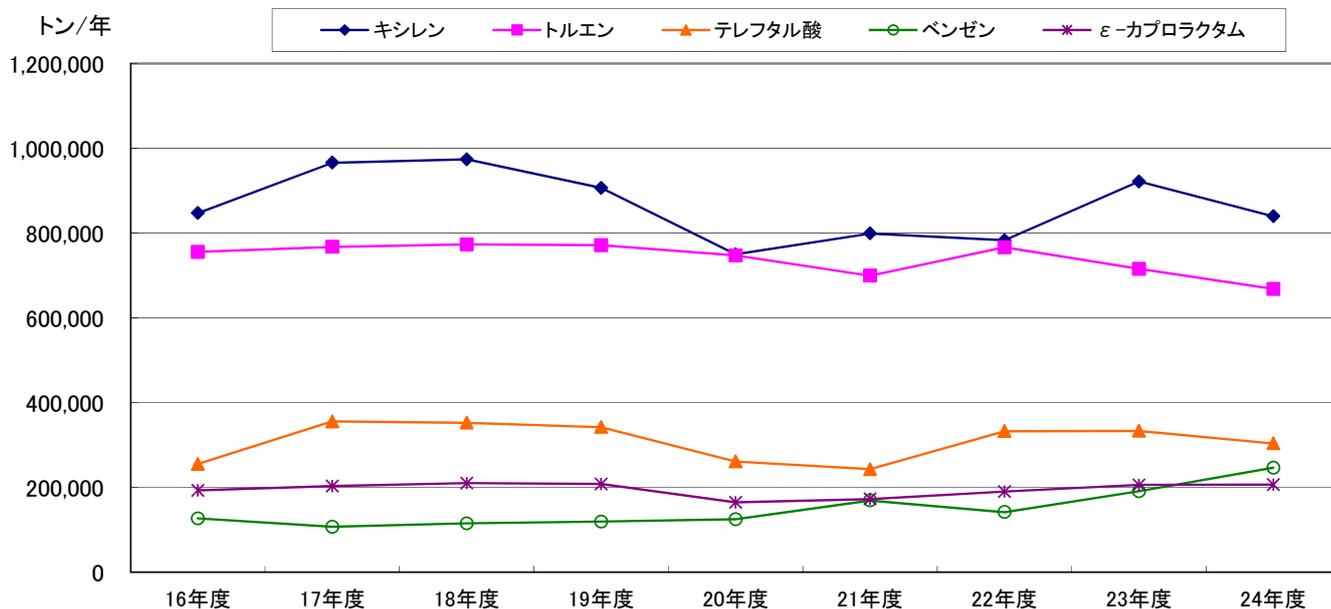


図2-5-3 届出取扱量上位5物質の経年変化

(4) 届出取扱量に占める届出排出量の割合

化学物質を製造・使用する際に環境中へ排出される割合（届出取扱量に対する届出排出量の割合）は、条例により集計が始まった平成16年度の0.62%に比べて、0.31%まで低下しており、事業者の排出抑制の取組が進んでいるものと考えられます。

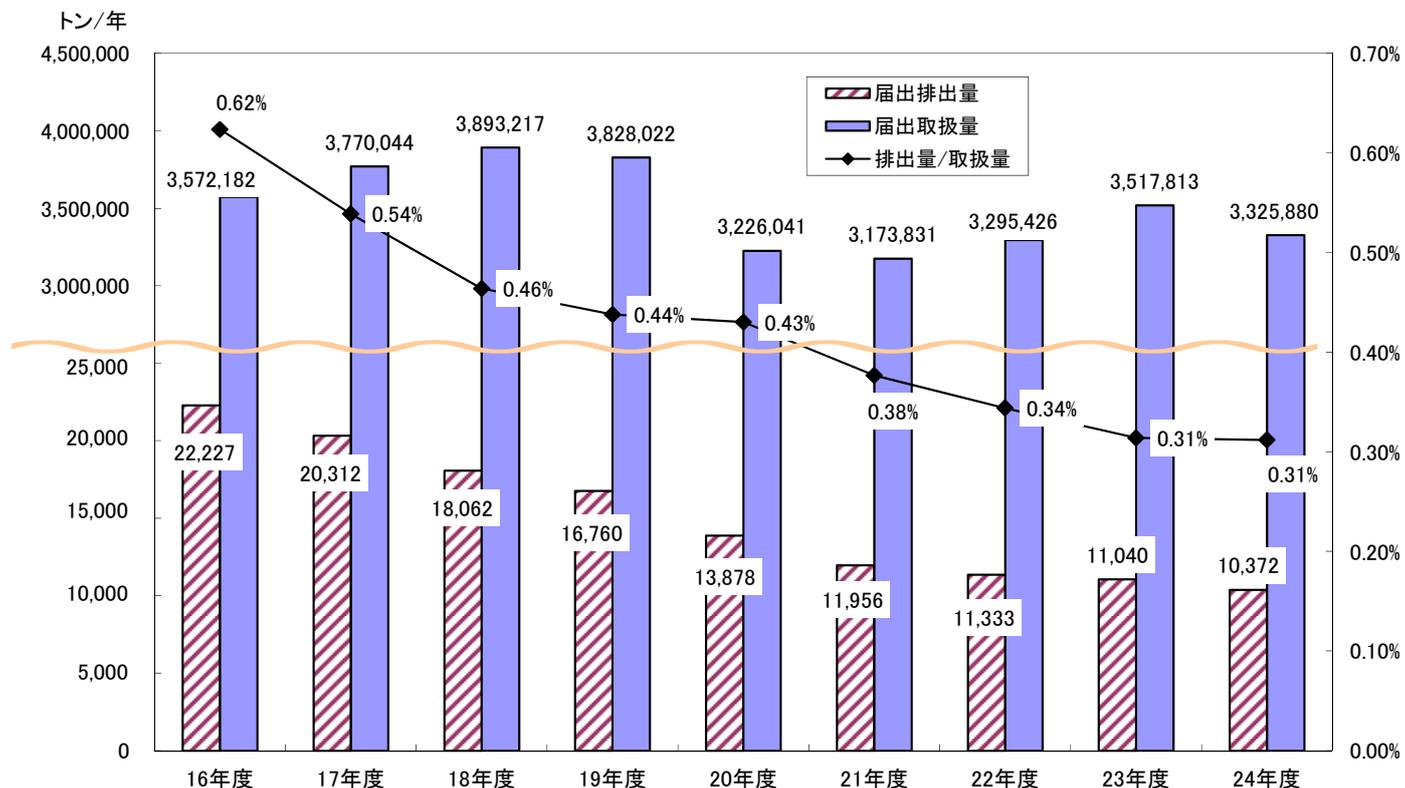


図 2 - 5 - 4 届出取扱量に対する届出排出量の割合の経年変化（継続物質）